

令和2年度
事業報告書（調理師専門学校）

5. 九州文化学園調理師専門学校

1) 基本的な教学運営方針

- ① 職業人としての調理師養成
- ② 一般教養及び人格の向上
- ③ 調理師として必要な知識と技能の修得
- ④ 調理師に付随した科目（トータルコーディネーター等）による資格取得

2) 教育活動

① 専門課程2年制カリキュラム（高度調理技術実習、レストランプロデュース、カップリングカフェ&リカー、フードサービス実習、接客作法Ⅱ）の充実

○専門課程2年制になって4回目の卒業生を送り出すことが出来たが、令和2年度は「新型コロナウイルス感染症対策の徹底」に重きを置いた1年となった。そのような状況の中で、上記カリキュラムについては講師の先生方と連携を取りながら、これまでよりも充実した内容で実施することができた。

校外研修も、研修旅行（東京方面）やテーブルマナーなどやむなく中止したが、それを変更し補う形で食楽論（30h）ツアーを実施した。講師の仕事場（製菓店、養豚場、搾油所など）を訪問し研修することで、目や肌で感じた実のあるものとなった。

② 西洋・中華・日本料理の基礎から応用までの調理実習と高度調理技術実習の実施

○調理実習は計画に沿って実施できた。1年次の基礎基本分野から2年次の高度調理技術実習については、各分野ほとんどが同一の指導者によるもので、内容的にも連動性があり充実したものとなっている。

また、2年次も基礎の復習を組み込み、反復練習をさせることにより、さらなる技術向上に努めた。その成果を集団給食や学生レストランなど、代金以上のものを提供し、料理とサービスに反映させることで、レベルにつながっている。

また、HTB などから新規講師4名の開拓を行い、多種多様な分野での指導を受けることで実習内容に幅を持たせ、学生の興味関心が、さらに広がるように工夫を行った。

③ 調理関連学習（テーブルマナー・テーブルセッティング・茶懐石マナー・シュガーデコレーション・介護食士3級）の実施

○テーブルマナーは、講師の店舗を中心に、和・洋・中の分野を網羅し、客の立ち位置の修得と、料理研究、料理と料理の間やサービス方法などを学んだ。テーブルセッティングは HTB 内ホテルヨーロッパに出向き、ホテルマンから雰囲気のある空間において受講実践し、その後、学生自身がセッティングした食器類でテーブルマナーを体験した。

茶懐石料理マナーについては、今回コロナ禍で中止した。シュガーデコレーションは、講師が千葉県在住により日程調整がつかず中止した。（いずれも、2年生は1年次に受講、1年生は2年次に受講予定）

介護食士3級講座は11～3月に延べ60時間実施し全員が資格を取得した。

④ インターンシップ（春季・夏季休暇中）の実施

○2年生12名は8月にHTBをはじめ、佐世保市、佐々町、長崎市、嬉野町、熊本市等12施設で校外実習を行なった。

遅刻・欠席もなく、挨拶や礼儀面でも好評可を得て、その内2名は就職へとつながった。

1年生については、3月15日から実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度も実施を見送り、校内実習で対応した。

⑥学内学生レストラン「メランジェ」の年間8回の実施（フードサービス実習の充実）及び集団給食実習の充実

○今年度で4代目となる学生レストラン『kyu-s' ガーデン メランジェ』は、コロナ感染防止のため、4月、5月、1月の3回を中止にした。6～12月までの5回については、コロナ対応を徹底し、検温・手指消毒はもちろんのこと席数減（26席）、席配置変更、アクリル板設置などと工夫して実施し、240名に来店いただいた（昨年度は8回実施、48席対応にて465名の来店）。本校は接客作法の講義があり、その指導により人をもてなすサービス精神も磨かれており、来店されたお客様への好印象とリピーターに繋がっている。

尚、学生レストラン中止の代替実習として、ランチボックス実習（弁当）を実施した。調専・学院の学生職員対象に、5回の実習で380食作成することができ、大量調理実習をカバーした。

また、調専・学院の学生及び職員に昼食を提供する集団調理実習は年間10回実施し、延べ382名（昨年度386名）の来客があった。

このような現場を想定した実践力の育成は、学生の卒業時の感想から就職への意識付けなどに好影響を与えることができたと思われる。

⑦ 保護者会の実施（1年生7月 2年生2月）

○7/4（土）に1年生保護者会食事会では保護者等10/12名が出席した。会では学生が進行役を務め、入学後3ヶ月の学校生活をパワーポイントで紹介し、その後、実習で習得した調理法を加味してデザートを含むランチを提供した。入学式では保護者の出席を断っていたこともあり、学校生活の状況を知っていただく有意義な会となった。

2年生については、例年保護者・恩師・九文関係者を招待してのフルコース料理の提供する卒業記念食事会を実施していたが、コロナ禍で中止した。その代替として、2月19日に、2年間の実習集大成として松花堂弁当と焼き菓子を作成し保護者への感謝の気持ちを自宅へ持ち帰り、2年間の実習成果の披露に代えた。

3) 学生支援活動

① 就職支援（インターンシップ受入施設・ハローワークとの連携、講師・卒業生の勤務先との連携、福岡地区大手ホテルへの就職先の開拓）

○2年次のインターンシップ先（2件）を含め、第1希望で就職が内定した。卒業生就職希望者11名。主な就職先は、県内4名、県外5名。尚2名はベトナムからの留学生で、農水省制度を利用しての就職を希望しており、現在申請中であるが難航している。講師が料理長をつとめるホテルで1名、分野別では、日本5名、和洋1名、給食1名、和菓子1名、パン1名となっている。求人数はコロナ禍でやや減少したが8.9倍（昨年度10.3倍）であった。調理師不足は顕著である。

福岡地区ホテルへの就職先開拓についてはコロナ禍のため実施できなかった。

② 庄屋フードシステム奨学金の継続と対応

平成21年度より続いた『庄屋フードシステム奨学金制度』がR2年度から廃止となり、現在、新規企業に打診を行っているがコロナ禍もあり難航している。

③日本学生支援機構奨学金、文科省高等教育無償化（修学支援金新制度）への対応と関係者への周知 ※（ ）は修学支援金新制度対象者（給付型）の対象者数

日本学生支援機構奨学金について、2年度受給者は、1年 5名（3名） 2年 4名（1名）であった。受給者の学生には卒業後半年後の返還に関する対応も行っている。

関係者への周知については、修学支援金新制度はR2年度スタートの制度であり、HP等での情報発信に加え、高校訪問・OC等でのチラシ配布や説明を行った。R3年度入学生16名のうち3名が給付

者である。

④令和3年度入学生から開始する学生サポート制度（アパート代・通学費・駐車場代補助）の準備と高等学校等への周知

旧佐世保市内を除く遠距離からの入学者像を図るため、今年度までの授業料減免額を減額し、令和3年度より『学生サポート制度』（アパート代・通学費・駐車場代補助等）をスタートさせることとし、HP等での情報発信に加え高校訪問・ガイダンス・OCなどで、チラシ配布・説明を行い周知したが、遠距離からの入学者増には繋がっていないため、今後も工夫をしながら周知を図っていきたい。

⑤留学生本校卒業後の進路対応（農水省日本料理海外普及人材育成事業の活用、大学への編入を含む）

現時点で、「農林水産省日本の食文化海外普及人材育成事業（5年間）」と特定技能（外食産業）があり、今春の卒業生2名が、農水省へ申請を行っているが、5/6時点で認可が下りていない。特定活動ビザに切り替え認可が下りるための農水省とのやりとりを行っている。

また、H29年度卒の庄屋フードシステム1名は本制度を利用して就職し、取組機関である本校が受入機関である庄屋フードシステムに対して、年間2回の監査と年間1回の技能修得実施計画の修得状況の報告が義務づけられ対応している。

4) 学生募集活動

① 専門課程2年制の周知徹底

○令和3年度入学生は16名（内 留学生1名）であり、今年度より数名増ではあるが、専門課程2年制に変更して5年になるが、その間入学者は、ほとんど定員の半数を下回る人数で推移している。定員充足にはまだまだ程遠い状況である。

専門課程の周知はHPやオープンキャンパス・高校訪問等で広報を行い定着しているが、今後も、高校生を惹きつけることができる教育内容の情報発信に努めたい。

② 各種ガイダンスでの職種・学校説明の実施と新型コロナウイルスに伴う高等学校休校措置で生じたガイダンス中止への対応（業者）新規提案事項等

※（数字）は昨年度

○業者主催ガイダンスはズーム開催4回を含む、16回（31回）参加した。新型コロナウイルスの影響で4月以降、3校3会場が中止となった。本校ブース参加者は138名（146名）であった。コロナ禍ではあるが、感染対策を取りながら、徐々に開催されつつある。

一方で、本校が契約している2業者を通じての資料請求は大幅に増加した。

③ 高等学校への職業紹介・調理実習（出前講座）の実施

○出前講座は、コロナ禍で例年より数か月遅れが生じたが、川棚高校生活総合科3年生、大村高校家政科3年生を対象に実施した。毎年出前講座を実施している北松農業高校はコロナ禍で中止となった。今年も川棚高校から2名の入学者があった。出前講座関係での入学者は確実に出ていくことから、今後も継続して入学者を確保していきたい。

④ 市内及び周辺地区高等学校の職業体験受入

○例年より約1ヶ月遅れではあったが、7/14 清峰高校、10/3 九文高校、10/8 佐世保東翔高校、10/21 大村城南高校、新規で10/24 北松農業高校、10/19 宇久高校の体験入学があった。総合学科は教科「産業社会と人間」の中で進路学習の一環として上級学校への体験入学を行っており、上記3校からは今年度3名（昨年度2名）の入学者があった。さらに参加者の入学に繋がるように連携を深めていきたい。

⑤ 学校説明会（オープンキャンパスを8回実施）の開催

ポスター内容の見直し、8月オープンキャンパス送迎バス（短大送迎バス共用）

の周知徹底

○年6回（6/20,7/11,8/2,9/12,10/24, 12/19,1/13,3/13）開催、延べ59名（うち保護者等16名、昨年度は延べ54名）が参加した。

例年体験実習を実施しているが、今年度はコロナ対応のため、時間を短縮するなど、前半実施分は調理実習デモンストレーション見学のみとし、その後、デモ料理と同じメニューを在校生が作成し、ランチとして食べて頂いた。後半はクリスマスケーキ、恵方巻き、製パンなど、参加者がデコレーションや巻き寿司、パンの成形など、短時間での体験実習を行なうなど工夫しての体験実習は好評だった。実体験は興味を引くメインの内容であり、次年度もコロナ対策を行う中で体験内容の工夫をしていきたい。

また、参加者の開始までの待ち時間を利用し、学生の日々の学校生活や実習風景の写真をまとめてスクリーンショットとして流すことで、より親近感が湧くよう努めている。

⑥ 情報発信の強化（ホームページ（新着情報随時更新）・インスタグラム発信・テレビ佐世保・情報誌・ライフ佐世保・受験雑誌（含むネット発信）等）

○ホームページの新着情報の発信が滞ることがあったが、インスタグラムの情報発信は学生の協力を得て、高校生目線での興味を持つ内容となるように心掛けている。テレビ佐世保（学園祭）、ライフ佐世保（学生募集・OC開催案内7回、学生レストラン開催案内等）での情報発信を行ったが、学生募集には思うように繋がっていない。

⑦ 学校訪問の実施と訪問校の見直し（本校入学実績校年4回以上）

○長崎市内と離島地区を除く高校訪問を年6回（含む合格通知持参、佐賀地区は西部地区（4回））に加えて佐賀市内（1回）、島原半島地区（2回）、上五島地区は8月に実施した。コロナ禍で実施時期や訪問校の対応状況など、例年と異なり苦慮したが、ほぼ予定通り実施できた。予算の関係もあり、過去の実績校を重点的に訪問した。学校によっては詳細な情報交換ができているが、なかなか学生募集に繋がらない状況がある。

⑧ 民間通信制高校（こころ未来高校・クラーク国際高校 等）・社会人関係施設の訪問

○民間通信制のこころ未来（長崎・佐世保）、クラーク国際（長崎）各高校の訪問を実施した。訪問校からの、今年度は0名であった。新規として、大村市に開校した神村学園大村校の訪問により1名の入学があった。民間通信制を含め、通信制等への訪問も、在籍数が増加しており重視していきたい。社会人入学については、昨年度から2年間で40万円の減免制度をスタートさせたが、入学者は2名であった。資料請求などもあっており、HPやネットなどでの情報発信も強化する中で、過去、この分野からの入学増に繋がりたい。

⑨ 留学生受入と関係団体（長崎日本語学院等の国内日本語学校、韓国釜山観光高校、韓国・台湾等の関係学校、長崎短大等）との連携強化

○平成28年度から正式に留学生の受入を開始し、R3年度は2名が合格したが、長崎短大からの1名入学に留まった。本校への入学実績が高い長崎日本語学院については、募集説明会参加や日常的な情報交換を行った結果、1名合格したが入学辞退があった。同校には、コロナ禍の中で、本校在籍学生の学費問題等でベトナム人職員の方など、ご協力をいただき本校の学校運営に多大な貢献をして頂いている。

また、留学生の大半はアルバイト収入で学費や生活費を工面していることから、今年度は、日本学生支援機構の『学びの給付金』等で収入が激減した時期を乗り切ることが出来たが、コロナ禍の中で、今後も継続的に留学生支援を行っていく必要がある。

⑩ 指定校推薦制度の見直し及び学費減免制度の継続

○指定校推薦（授業料減免）については、昨年度から、推薦枠を、それまでの16名から26名と増やしたが、若干であるが受験者増には繋がった。前記の通り、来年度については、学生サポート制度・高等教育の授業料無償化制度対象校更新申請を行い、学生支援制度を拡充し入学生を確保に努力している。

⑪ 佐賀西部地区・島原半島地区の強化と五島地区・上五島地区の新規開拓

○島原半島地区学校訪問は年2回実施したが受験に繋がらなかった。訪問した数校では本校への入学可能性がある情報提供もあり、前記の学生サポート制度の早期の周知を図り入学に繋がりたい。下五島地区2校の高校訪問を実施し、情報発信を行った。宇久高校からは体験入学があり、調理に興味を持っている学生もいたことから、今後、情報交換に努め入学に繋がりたい。

⑫ 文科省高等教育授業料減免制度への対応（受入条件整備）及び更新申請

○高等教育の授業料無償化制度（令和元年9月認可）の更新申請を行い、対象校として再認可された。本制度を活用して3名の入学があった。

5) その他活動

① 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の実施（年2回）

○2年目であるが、コロナ禍を受け資料送付による年1回の評価委員会とした。年度末には評価を行ってもらい、県学事振興課への提出及びHPの公表を行なう予定である。助言頂いた内容については、優先順位を付けて、今後の教育活動や学生募集に繋がっていききたい。委員会は高等教育無償化認可校の要件のひとつとなっている。

② 地域への貢献

・藤原町町内会との連携（学園祭・レストラン営業）

○コロナ禍ではあったが、学園祭では趣向を変え、テイクアウトに重きに置き、ランチと焼き菓子の食券販売を町内会に協力していただき、昨年度とほぼ変わらない多数の参加を得た。

学生レストランについては、町内会を中心にリピーターの方もおられ、地元の方に喜ばれている。

・地域イベントへの開催及び参加

○① 熊本県人吉・球磨地方豪雨災害の復興支援協力

2年生保護者と以テラ関係者からの依頼を受け、7月の熊本県人吉・球磨地方豪雨災害の復興支援として、災害義援金のための募金活動と、災害による売上落ち込みの援助をするため球磨地方特産品「山うに豆腐」の販売協力を実施した。佐世保では馴染みのない「山うに豆腐」をPRするため、9月～12月までの学生レストランのメニューに取り入れPRを行った。レストラン受付では「山うに豆腐」を販売し、来店客にも支援協力をお願いした。募金活動については学院生・教員の協力もいただいた。

○② おあいこプロジェクト始動

コロナウイルス感染症に対応される医療従事者へ感謝と応援をする目的で市民活動として令和3年1月から企画、立案し「おあいこプロジェクト」が始動した。本校が代表、本校講師 草加家 高木先生を事務局とし、菓子店をはじめ、画家や幼稚園、印刷会社など現時点で市内約30社・団体に賛同してもらった。2月17日に校長、教員、2年生代表者、賛同者と共に佐世保市役所に、市長を表敬訪問し取り組みを紹介。手始めとして2～4月まで月1回菓子や絵画、ハンドクリームなどを佐世保市内の医療機関に届けることにした。

本校活動第1弾として2月22日、2回目3月29日に市内の医療機関に学生作成の焼き菓子2種類100組を贈った（本校作成分は2日分とも佐世保市総合医療センター贈呈）。長崎新聞、NHK、テレビ佐世保で放映、記事掲載された。第3弾は4月26日に贈呈予定している。

・地域ボランティア清掃活動（月1回）

○コロナ禍で今年度は実施できなかった。

○③ 学園内での連携

・長崎国際大学生の受入調理実習の実施（年2回）

○今年度から、受け入れていた日本語教員コースが無くなり中止となった。

・九州文化学園ビブリオバトル大会参加

○日程の都合もあり、参加できなかった。

④ 専修学校内での連携

- ・ 歯科衛生士学院への料理教室開催（1 学年 2 回）

○11/11,2/15 に 1 年生を対象に実施し好評を得た。

- ・ 歯科衛生士学院へのイベントでの弁当作成依頼（2 回）

○12/23,2/24 に学院行事に昼食の依頼を受け、弁当と焼き菓子を約 200 食提供した。注文数の多さが 2 年生の作る励みとなり、大量調理の大変さと楽しさを共有できた実習となった。学院側にも喜んでいただいた。

- ・ 学園祭の共同開催

○10/11（日）に実施したが、学院がオンライン学園祭となったため、今年度は単独学園祭となった。例年は町内 1～3 組の回覧板で広報をお願いしていたが、今年度は、コロナ対策のため学校周辺の 2 組のみの広報とした。学園関係者には参加の自粛をお願いしたため、来場者は地域の方一部と保護者の方のみ限定となった。

- ・ 防災訓練の実施

○例年学院と共同で実施しているがコロナ禍で消防署の助言もあり中止した。

HR で防災訓練の意義、避難経路の説明をし訓練に代えた。

- ・ 集団給食実習での学院生への食事提供

○学院の職員も含め、昼食時にランチ（500 円）で提供を行い、4 月から 2 月までの 10 回（8 月除く）で 382 食を提供した。喫食者にはアンケートをとり、内容への満足度などを調査し、その後の実習に活かした。残食もほとんどなく好評であった。

⑤ 2020 年度創立 50 周年記念行事の実施（延期を含む）

○コロナ禍で来賓・関係者を動員しての祝賀会は難しいことから、記念式のみを 11 月 26 日に本校大講義室にて開催した。理事長他、学園・法人本部関係者のみの出席のもと、本校 1, 2 年生と共に、記念式を行った。

祝賀会に関してはコロナ禍の中で難しい状況にあるが、令和 3 年度中に計画・実施予定である。